

平成27年度 第2回小山町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成27年10月30日（金） 午前10時00分開会  
午前11時00分閉会
- 2 開催場所 小山町役場 大会議室
- 3 出席委員 込山正秀町長、天野文子教育長、山口今朝治教育委員、齋藤広人教育委員、稲恵子教育委員、米山芳子教育委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席した事務局職員等  
杉澤晃芳理事、小野学企画総務部長、田代順泰教育部長、秋月千宏住民福祉部長、長田忠典町長戦略課長、湯山博一こども育成課長、大庭和広生涯学習課長、勝俣純専門監、渡辺徹町長戦略課長補佐、小野正彦こども育成課長補佐
- 6 傍聴人の人数 2人
- 7 報道機関者の人数 2人
- 8 会議次第
  - 1 町長あいさつ
  - 2 教育長あいさつ
  - 3 会議事項
    - (1) 小山町教育大綱（素案）について
    - (2) 教育に関する重要施策の方向性について
      - ア 放課後児童支援
      - イ 教師の授業力向上対策
      - ウ 家庭教育の支援
  - 4 今後の予定
  - 5 その他

## 9 会 議

### 1 町長あいさつ

教育大綱については、前回、5月に開催した総合教育会議において皆様からいただいた御意見を踏まえ素案を策定した。

本案では、『「富士山頂のあるまち」「金太郎誕生の地」にふさわしい元気で、明るく、心豊かな人づくり』を基本理念とし、「生きる力の養成」、「郷土に誇りと愛着を持つ教育の推進」、「未来へ飛翔する人材の養成」、「地域社会全体で取り組む教育の推進」、「安心・安全な教育環境の確保」及び「生涯学習の推進」の6つを基本方針とし、それぞれの基本方針毎に「取組の視点」を定めている。

教育に関する重要施策の方向性については、教育長から「放課後児童支援について」、「教師の授業力向上対策について」及び「家庭教育の支援について」の3点について、今後の方向性を協議したいとの提案があったため、その内容について協議したい。

この教育会議が、本町の子ども達の輝く未来の実現に向け、実りある会議となるよう、皆様の協力をお願いしたい。

### 2 教育長あいさつ

先日の学校訪問では、子ども達が生き生きと学習している姿があり安心した。

全ての学校が地域の方の協力、惜しみない応援や暖かさの中で、子供たちの心が豊かに育まれているということに校長先生達は感謝している。

県の管理主事からも全ての学校に支援員が居るなど、学校が町の中心にあって、とても大切にされ良い教育ができていると高い評価を受けた。今後も継続していきたい。

また、今年度から指定管理を受けた総合文化会館は、様々な行事に丁寧に対応しており、町民の参加も多く、満足度も高かったと思う。図書館運営や子育て支援など、町の活性化に繋げていくよう、更に努力していきたいと思っている。

今、教育改革が叫ばれているが、実は4半世紀たっている。小山町はしっかりと足を地に付けて人の心を大切にしたり、人を育てる気風が根付いていると感じており、安心して教育活動ができている。

しかし、世の中の変化により、特別支援教育を要する子ども達の増加など様々な課題が出てきており、今後、町長部局と連携して取り組んでいきたい。町づくりは人づくりということで一生懸命邁進していきたい。

3 会議事項 議事進行は、座長である町長にお願いします。

(1) 小山町教育大綱（素案）について

杉澤理事が資料1「第1回小山町総合教育会議での意見の教育大綱（案）への反映」、資料2「小山町教育大綱（素案）」、資料3「国の第2期教育振興基本計画との対比表」、資料4「総合計画後期基本計画との対比表」に基づき説明を行った。

座長（町長）：皆様から御意見等をいただきたい。

山口委員：大綱の基本方針に「確かな学力」の育成の記載があり、大変ありがたい。

町の小学校は小規模校のみとなっているが、子どもの育ちを考えた場合は、大きなメリットがあると考えられるが、教師の面から考えると担任以外の教師が少ないことや、今後、大量の退職職員があること、中堅層の教師が少ないことから授業方法の伝承や授業力向上のための検討機会の確保が困難となっている。教師の授業力向上のため、授業アドバイザーの増員を検討する時期だと考える。

本大綱（素案）について異論はない。

齋藤委員：青少年をめぐる様々な問題の背景として、地域や家庭の「教育力の低下」があるとされている。

大綱の指針に「社会全体で取り組む教育の推進」が記載され、ありがたい。

家庭に関しては、核家族化の進行や地域における人間関係の希薄化などにより、子育てに不安を抱える保護者が増えている。また、雇用形態の変化により、保護者と子どもの過ごす時間の減少や自己中心的な保護者も見受けられることから、相談業務などによる、家庭教育支援の継続が必要だと考える。地域・家庭・学校の連携は大変重要だと思う。

本大綱（素案）について異論はない。

稲 委員：町民文化祭に出品した方々は、作品の制作が生きがいとなり、さらなる学習意欲を生んでいると思う。誰でも、いつでも、どこでも学べる環境づくりだけでなく、学びの成果を生かす場の充実や学んだことを教え合うことができる環境づくりも必要と考える。

大綱（素案）中に「学習を通じて人とつながり、お互いに尊重し合い、交流を深めながら」という記載があり、生涯学習の更なる活性化を期待する。

本大綱（素案）について異論はない。

米山委員 : 大綱（素案）に「乳幼児期にふさわしい遊びや生活の充実を図り」との記載があり、大変良いことと思う。乳幼児期は、自己肯定感、人への信頼感、自己の主体性を形成することが重要だと考える。無条件の愛情が自己肯定感を育み、自己肯定感が人への信頼感を育み、次第に主体的に活動するようになると思う。主体的活動の中心は、「遊び」であり、「遊び」によって社会的、情緒的、道徳的、知的発達が促されることから、保育士や教諭の関わり方が重要であり、乳幼児に対する読み聞かせ等の施策が重要だと考える。

本大綱（素案）について異論はない。

教育長 : 放課後児童教室については、各学校でそれぞれ必要性を感じているが、中には、施設面での課題が残る学校（明倫小）もある。何らかの方法で設置できるよう考えてもらいたい。

現在、教師の授業力向上が大きな課題となっている。小山町の学校は小規模校しかなく、学校内で研修する際、相談相手が少ないことから、菜の花講座や金太郎勉強会という町独自の取組みをしている。

授業アドバイザーが個別に授業力向上について献身的に指導しており、成果があがっているが、過重となっているため、1名の増員をお願いしたい。

また、近年、特別支援が必要な子どもが増加しており、指導主事がその対応にあたる時間が多くなっていることから、本来の業務である学校へ研修方法の指導がほとんど出来ない。今後、特別支援教育を核にして、小山町の教育を進めていきたいと考えており、経験豊かな方を増員していただきたい。

本大綱（素案）について異論はない。

座長（町長） : 皆様からの御意見をいただいたが、内容の修正箇所は無いようなので、本案をもって、町議会、パブリックコメントを経て、次回の総合教育会議で成案としたいがよろしいか。

全委員 : （異議無し）

小山町教育大綱（素案）について、原案のとおり可決する。

(2) 教育に関する重要施策の方向性について

ア 放課後児童支援について

田代教育部長が資料5に基づき説明を行った。

座長（町長）： 御質問等はあるか。

座長（町長）： 須走の放課後児童クラブと放課後児童教室で重複している子どもは居るか。

教育部長： 重複している子どもはいない。

座長（町長）： 時間が合わないということか。

教育部長： 放課後児童クラブにも放課後子ども教室の案内をしたが、実際重複している子どもはいない。

座長（町長）： 費用面はどうか。

教育部長： 子ども教室は無料で、児童クラブは月1万円となっている。

教育長： 放課後子ども教室は、保険として入会時に千円いただいている。運営については、須走彰徳山林会から頂いている。その内容については、1時間は集中して物事を学ぶという時間をとっている。

齋藤委員： 放課後子ども教室の講師と話したが、行くのが楽しいと言っていた。地域の教育力向上にも繋がる部分もあると思うので、今後他校へも展開していけたらと思う。

座長（町長）： 安心して子どもを産み育てる環境を整備するためには、放課後における児童の支援は非常に重要であると認識している。今般策定した「小山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」にも、放課後子ども教室の増設を目標として掲げていることから、財政状況を見ながら、放課後児童支援について積極的に進めていきたい。

イ 教師の授業力向上対策について

田代教育部長が資料6-1、6-2に基づき説明を行った。

座長（町長）： 御質問等はあるか。

山口委員： 若年層の教師の割合が多いことで、現在の授業アドバイザーの業務が過重となっていることから、小学校、中学校別々のアドバイザーを配置していただきたい。

また、特別支援を要する子どもの増加から、指導主事がその対応に追われ、本来の指導業務に支障があることから、特別支援関係に対応できる経

験豊かな方の配置をお願いしたい。

座長（町長）： 現在、学校現場では教師の多忙化が大きな課題となっている。こうした中で、教師の授業力を向上するためには、山口委員からご意見があったように、授業アドバイザーの活用推進も効果的であると思う。今後、町としても、子ども達がより良質な教育を受けられるよう、教師の授業力向上に向けた施策を支援してまいりたい。

#### ウ 家庭教育の支援について

田代教育部長が資料7に基づき説明を行った。

座長（町長）： 御意見等はあるか。

全委員： （特に無し。）

座長（町長）： 教育の原点である家庭教育は、子どもの人間形成に大きな影響を与えることから、非常に重要であると考えている。しかし、近年は、家庭を取り巻く環境が大きく変化し、家庭の教育力の低下が懸念されている。子どもたちの健やかな成長を育むためには、学校だけでなく、地域、事業者、行政が社会全体で家庭教育を支援していくことが必要であると思うので、町としても積極的に取り組んでまいりたい。

#### 4 今後の予定（案）について

町長戦略課長が、資料8に基づき説明を行った。

#### 5 その他

町長戦略課長： 会議全体について何かあるか。

全委員： （特に無し）